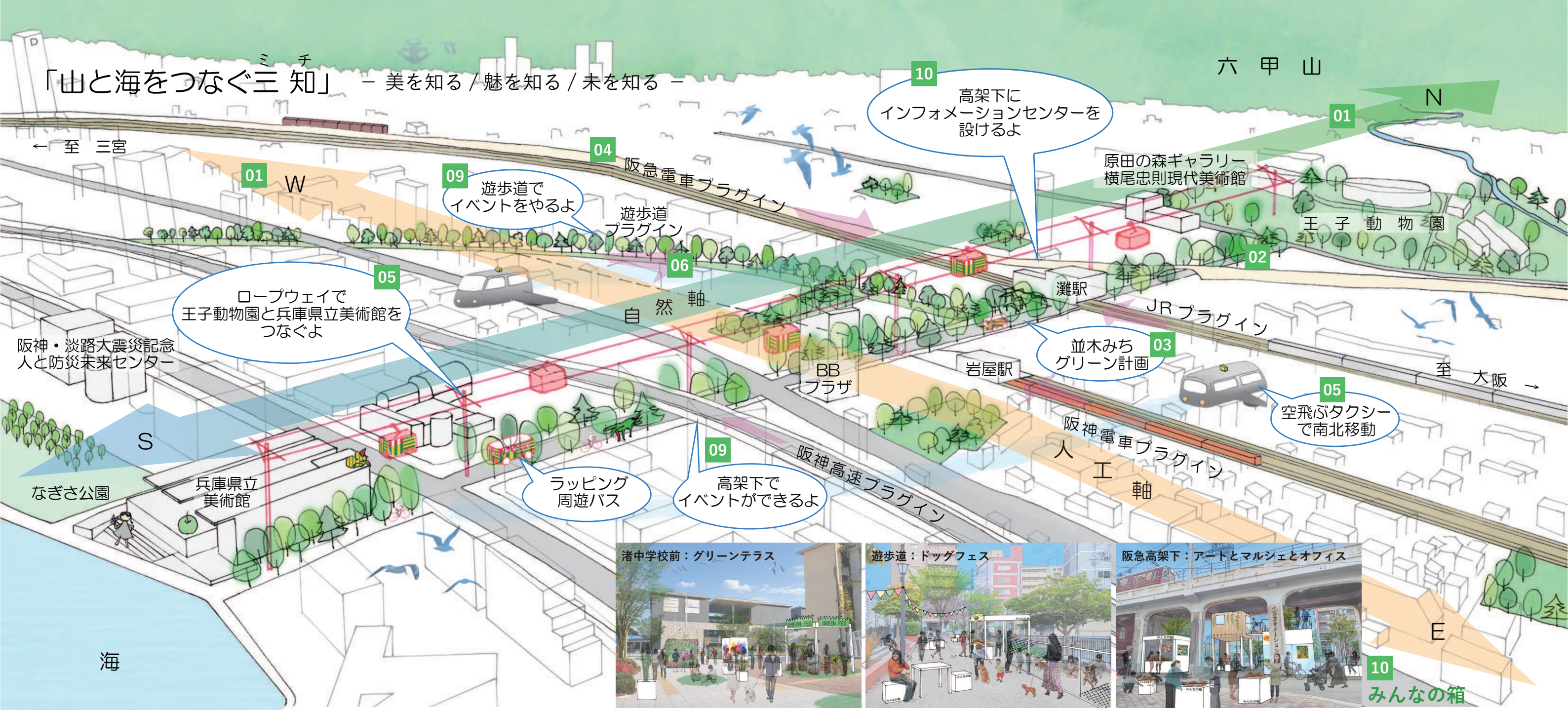


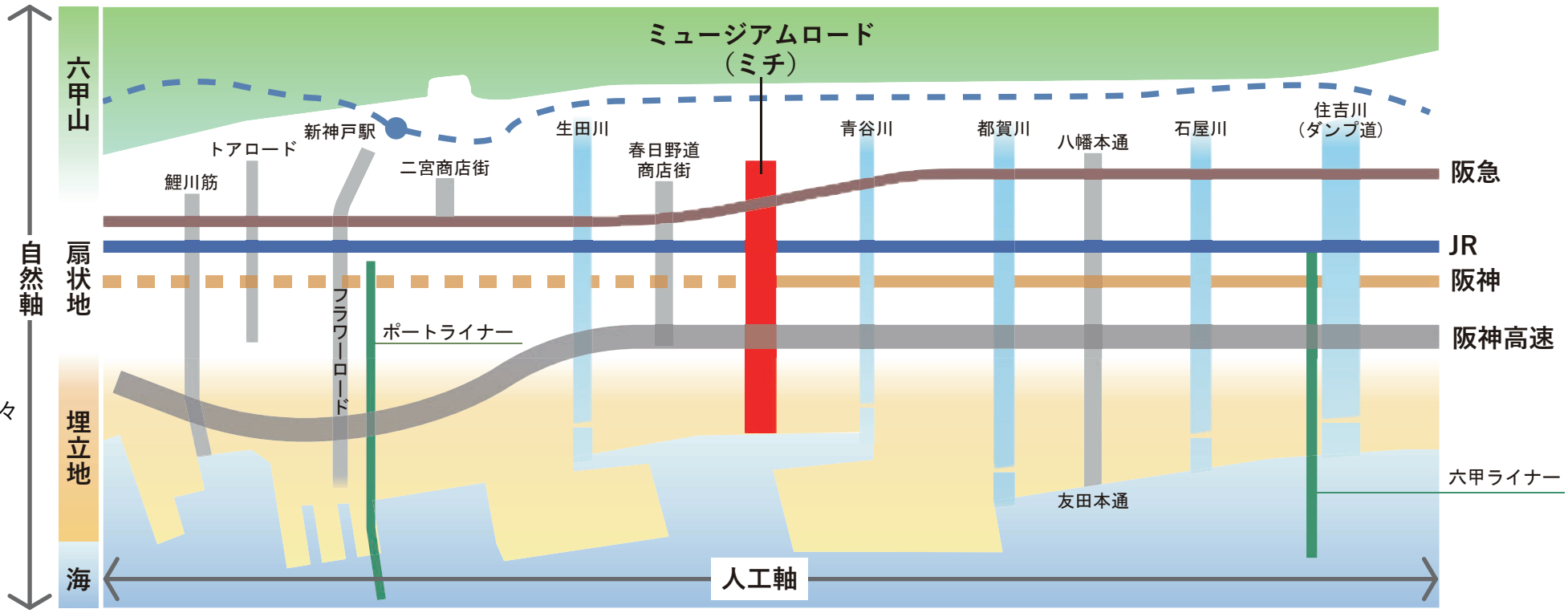
# 「山と海をつなぐ三知」 - 美を知る / 魅を知る / 未を知る -

六甲山



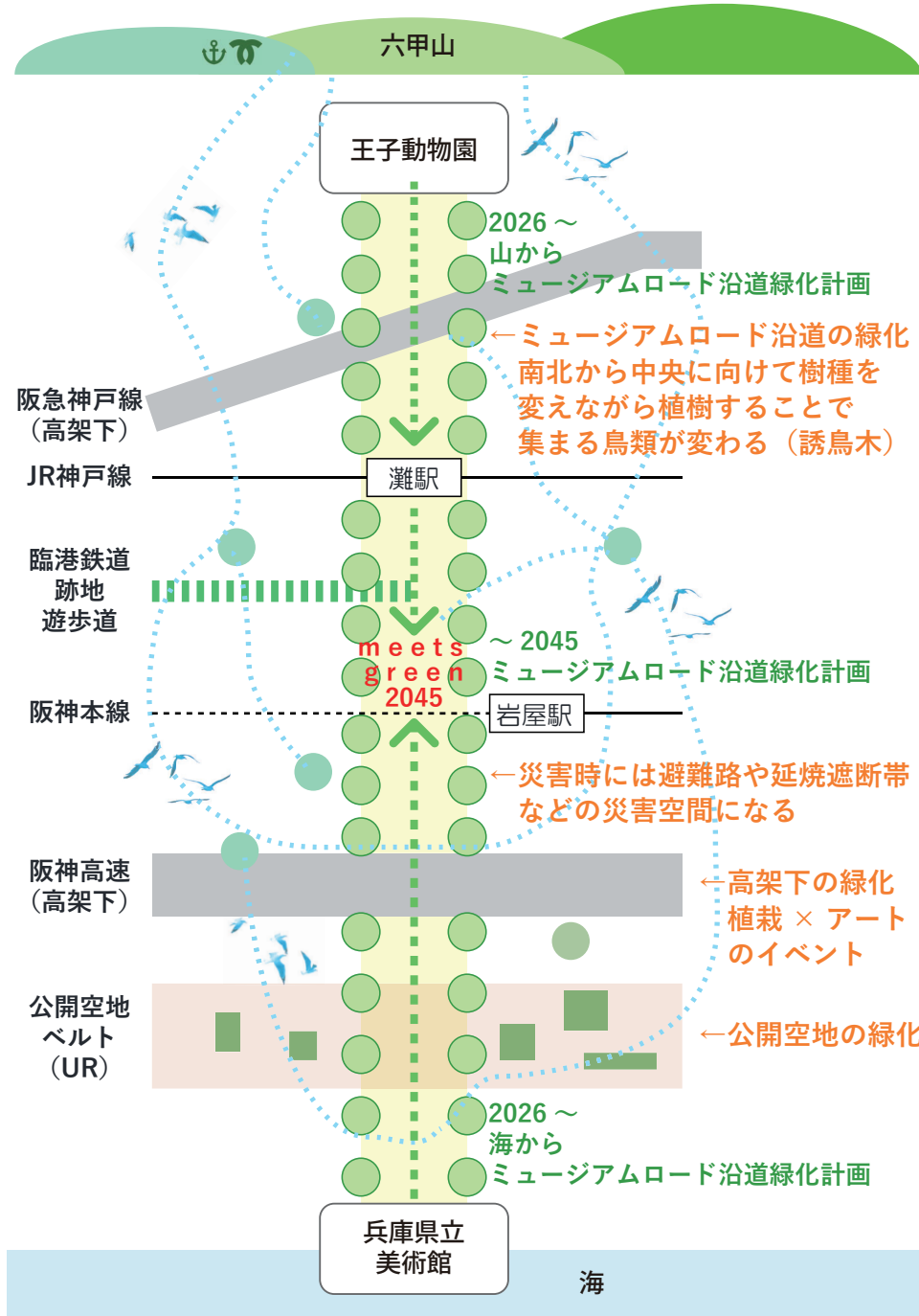
## 01 山から海へ・海から山へ<神戸のまちを分析する>

神戸のまちは北は六甲山、南は大阪湾に挟まれた帯状の細長い都市です。現在の海岸線を形成する埋立地は、六甲山系を切り開いた事によって発生した「土砂」によって築かれてきました。六甲山系を源流とする河川が、やがて大阪湾へ至るこの流れが、神戸のまちに「山から海へ」「北から南へ」と貫く自然の軸を生み出しています。一方、その自然軸に直交する、鉄道や高速道路、遊歩道といった人の営みを支える要素が東西方向に整備され、人口軸が形成された歴史があります。神戸の都市構造は、南北の「自然軸」と東西の「人工軸」によって成り立っています。フラワーロードが都市としての南北をつなぐ道であるならば、生田川や住吉川は、自然の流れで南北をつなぎます。しかし神戸は南北方向に高低差が大きく、坂道も多いため、高齢者や障がいのある人、子どもなど、多様な人々にとって移動しにくい構造となっています。本提案では「ミュージアムロード」を神戸の文化や人の流れをつなぐ新たな「三知（ミチ）-美を知る=美術/魅を知る=魅力/未を知る=未来」として再定義し、誰もが歩き（移動し）やすく、滞在し交わることのできる「ミチづくり」を目指します。

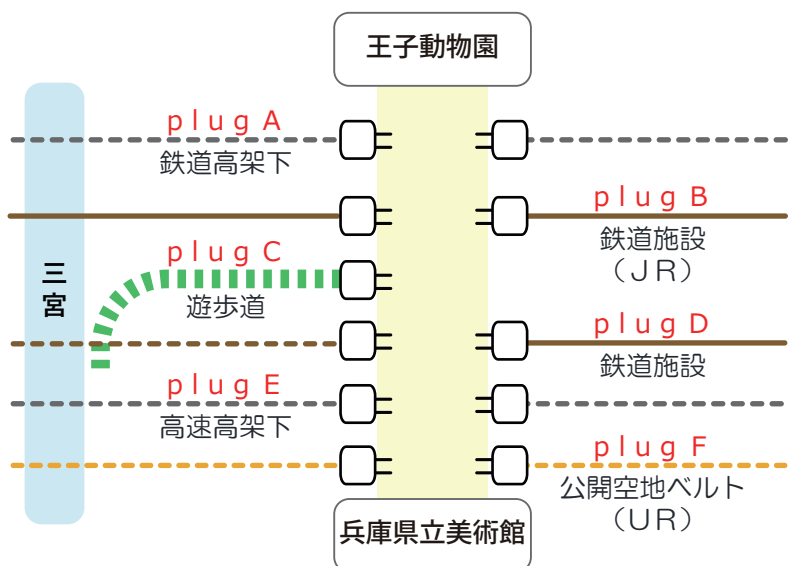


10 みんなの箱

## 02 自然軸 <並木ミチ×ミュージアムロード>



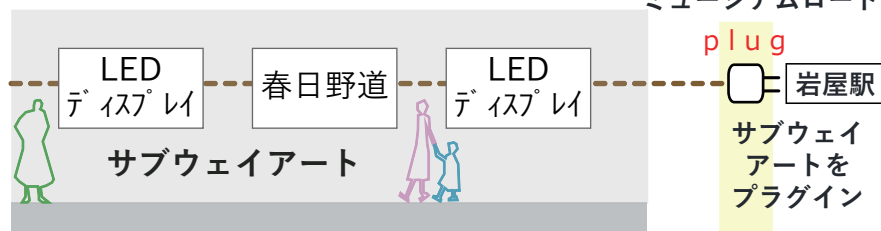
## 04 人工軸—プラグイン <要素(鉄道/高架下/遊歩道/公開空地)×ミュージアムロード>



### ■魅を知る—魅力の創出

新たなハード整備を目的とするのではなく、東西に延びる人工軸の要素をプラグインし、人の流れを自然に取り込む仕組みを提案します。鉄道高架下や遊歩道、公開空地など、人工軸とミュージアムロードが交わる結節点を活用し、イベント活動等の受け皿となる場を点的につくります。

阪神電車でLEDディスプレイを活用したサブウェイアート、兵庫県立美術館で展示される作家の作品を映します。



### ■未を知る—緑の未来像

このエリアを「人が集い、滞在し、交流を生む文化と自然の軸」とするためミュージアムロードへの植樹を提案します。

並木ミチは、神戸が本来持つ南北の自然の流れを取り入れ海側・山側の双方から段階的に進める中長期計画とします。時間とともに育ち、10年後・20年後の姿が楽しみな並木ミチを目指します。

### ■歩く×溜まる

・六甲山から海へと吹く風の流れ (六甲おろし)  
・山裾から市街地を貫く河川の流れ  
・山から海へと向かう地形の流れ  
これらは、神戸の都市構造を形づけてきた南北方向の自然の流れです。植樹によってこの流れをミュージアムロードへ取り込み、「歩きたくなる」「溜まりたくなる」環境を整えることで、「文化と自然が重なり合うミチ」として再定義します。この自然由来の気持ちの良い「ミチづくり」が、文化的な活動を持続的に育てるための基盤となります。

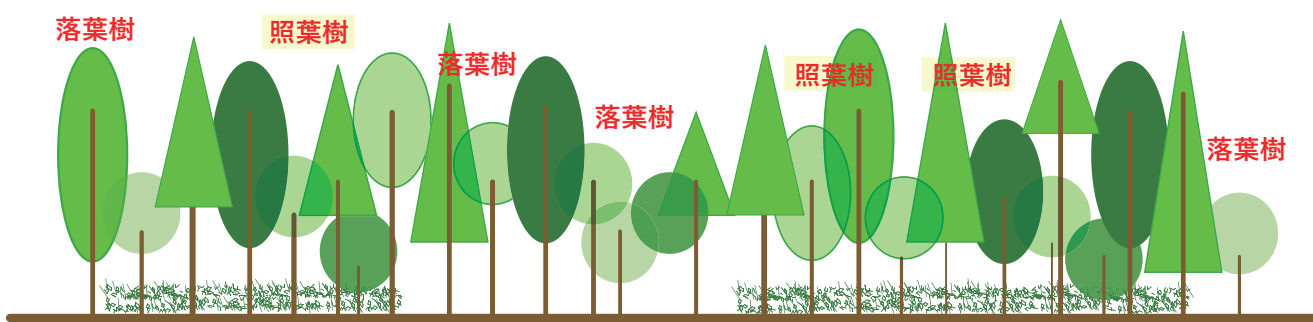
### ■市民参加による生態系の再編

駅前広場や公開空地、公園などで市民参加型植樹イベントを継続的に実施します。誘鳥木・六甲山由来の樹々の植樹をすることで六甲山の自然を段階的に取り込み、鳥たちのネットワークにより新たな生態系を育むとともに市民の「マイロード意識」を醸成し、地域一体でミュージアムロードを育てていきます。

### ■防災と忘災

この並木ミチは災害時に避難路や延焼遮断帯として防災に寄与し、阪神淡路大震災の教訓を活かした忘災 (震災を忘れない) のシンボルとなります。

## 03 <グリーン計画×ミュージアムロード>



2025年は、神戸大空襲から80年、阪神・淡路大震災から30年の節目の年です。神戸市は「神戸の復興は緑から」を掲げ、災害からの再生を緑とともに進めてきました。本提案はこの思想を継承し、グリーン計画を次世代へつなぐためのプログラムとします。

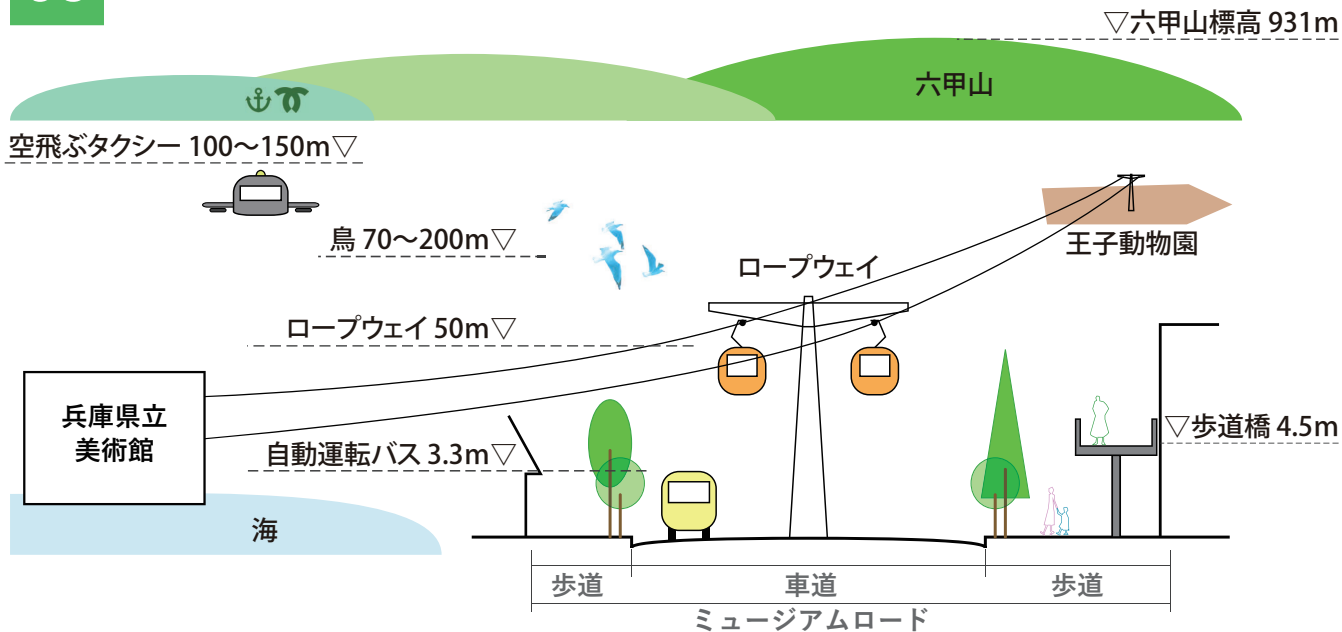
### ■「永遠のグリーン」をつくる

ミュージアムロード沿いに植樹する樹木の構成木には照葉樹などの常緑樹を積極的に用います。そこに季節の彩りを与える落葉樹を織り交ぜることで、年間を通して緑が途切れない、季節の変化を感じられる持続的でみどり豊かな並木ミチを形成させます。

### ■玄人×素人

造園家を交えた植樹計画を行い玄人による整備と素人 (市民・ボランティア) 参加による植樹計画のミックス案を採用します。公開空地では、市民による土への回帰として「六甲山の土を使ったインスタレーション」等をアーティストとコラボレーションします。

## 05 <モビリティ×ミュージアムロード>



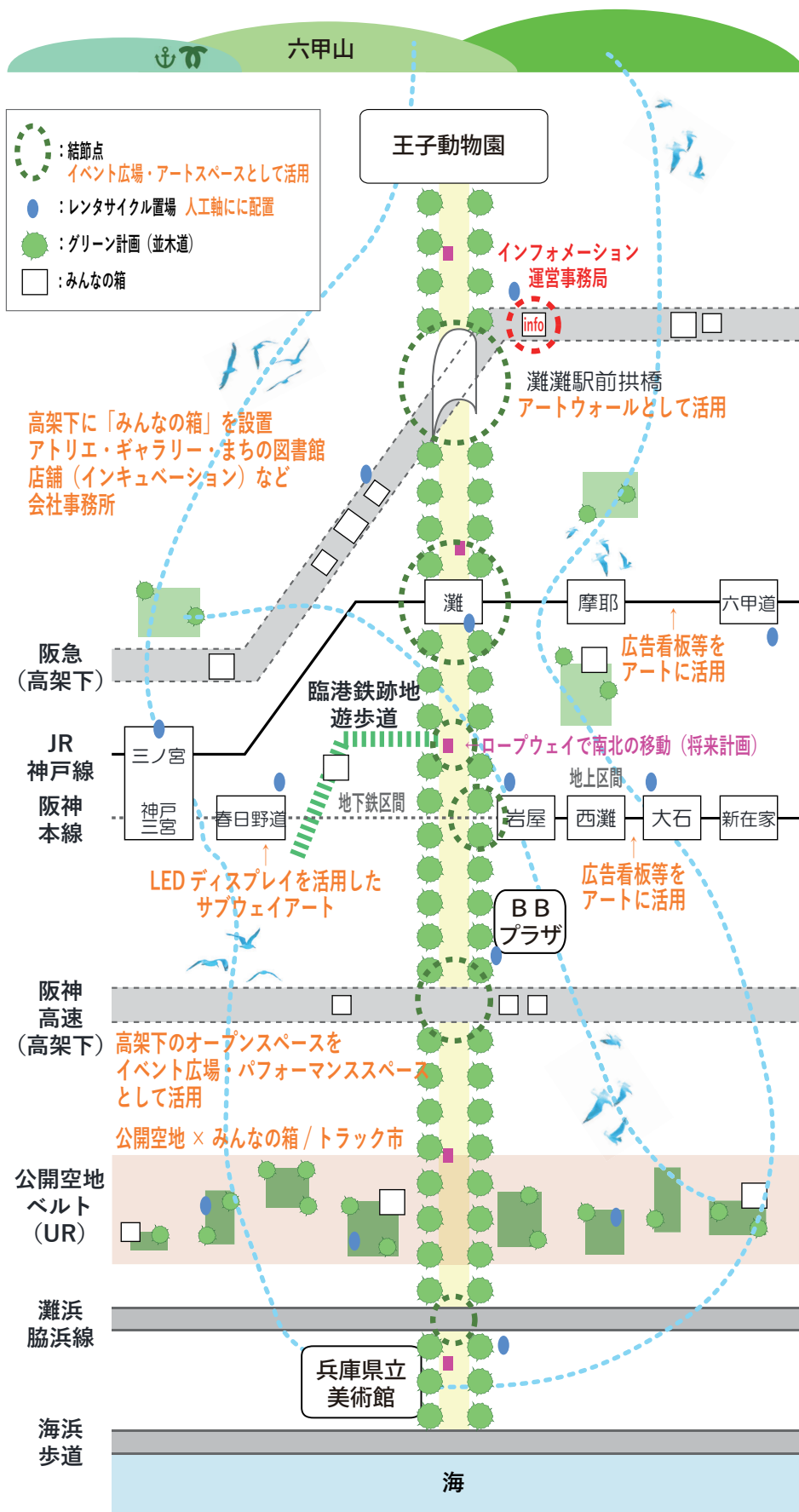
神戸は東西方向に交通が集中する一方、地形的制約により南北移動が脆弱で、回遊性が課題となっています。ミュージアムロードでは、植樹による心理的な歩きやすさに加え、段階的なモビリティ整備を行い、南北移動の負担を軽減し、多様な人々が回遊しやすい環境を整えます。

- ・即効性のある導入：シェアサイクルの充実やバス路線の拡充
- ・中期的に展開：グリーンスローモビリティの導入
- ・長期的に展開：ロープウェイの可能性 / 空飛ぶタクシー

### ■速さと高さの共生：未を知る—モビリティの未来像

障害者、高齢者など歩く / 動作のスピードの違う人々と共存するために、3つの速度の違うモビリティ「歩」「自転車」「バス・自動車」を移動手段として連携させます。平面的なつながりだけでなく高さのつながりにも着目し、歩道橋、ロープウェイ、空飛ぶタクシーなどが自然と共生して、樹々や鳥、見る機会の少ない街並みを鳥瞰で上から見ることのできる20年後を目指します。

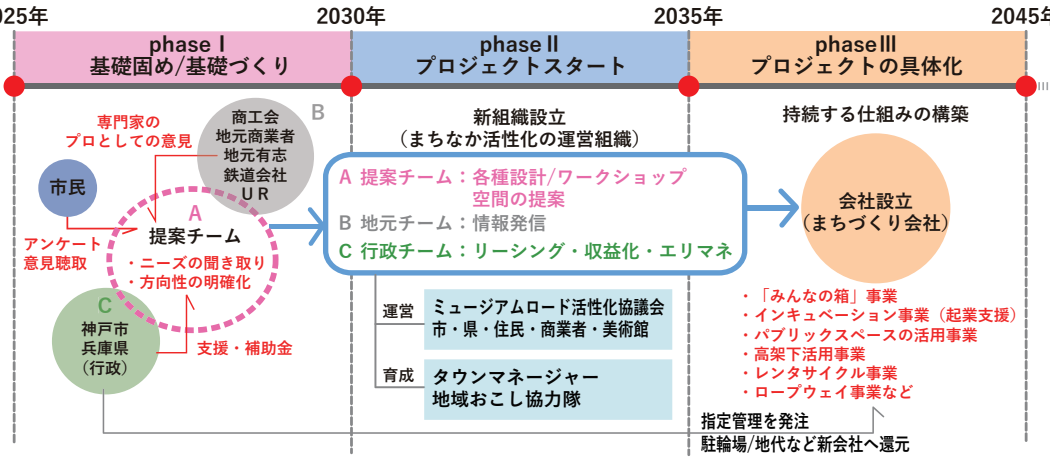
# 06 自然軸×人工軸 ＜ハブとしてのミュージアムロード＞



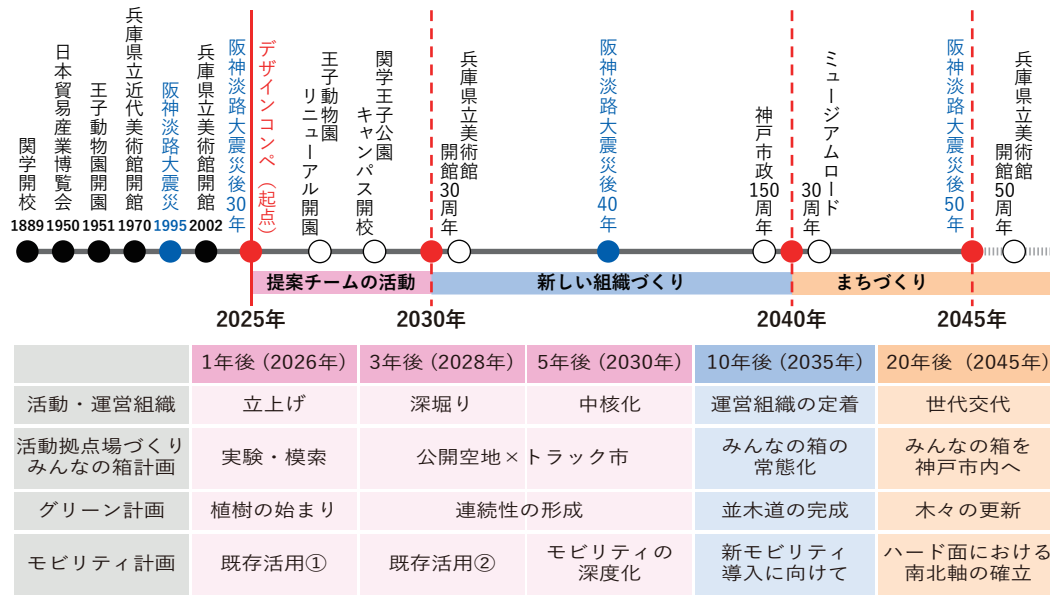
**■美を知る × 魅を知る - 美術館へつなぐ**  
人工軸のプラグインにより、ミュージアムロードを、自然軸と人工軸が交差する都市の「ハブ」として再構築します。結節点にある既存空間を活用し、イベントを継続的に展開させ、持続的に運営可能な仕組みを整える組織づくりを積極的に行います。次へとつながる機会を創出するためのイベントを展開する手段を「例」として検討しました。

# 07 持続可能な組織づくり

ミュージアムロード（自然軸）と人工軸が交わる結節点で、継続的に人の流れを生み出す計画を進めるために官民協働の組織を立ち上げ、各フェーズに必要な取り組みを共有・検討を重ね、単発に終わらない、段階的に発展する持続可能な地域像を描きます。

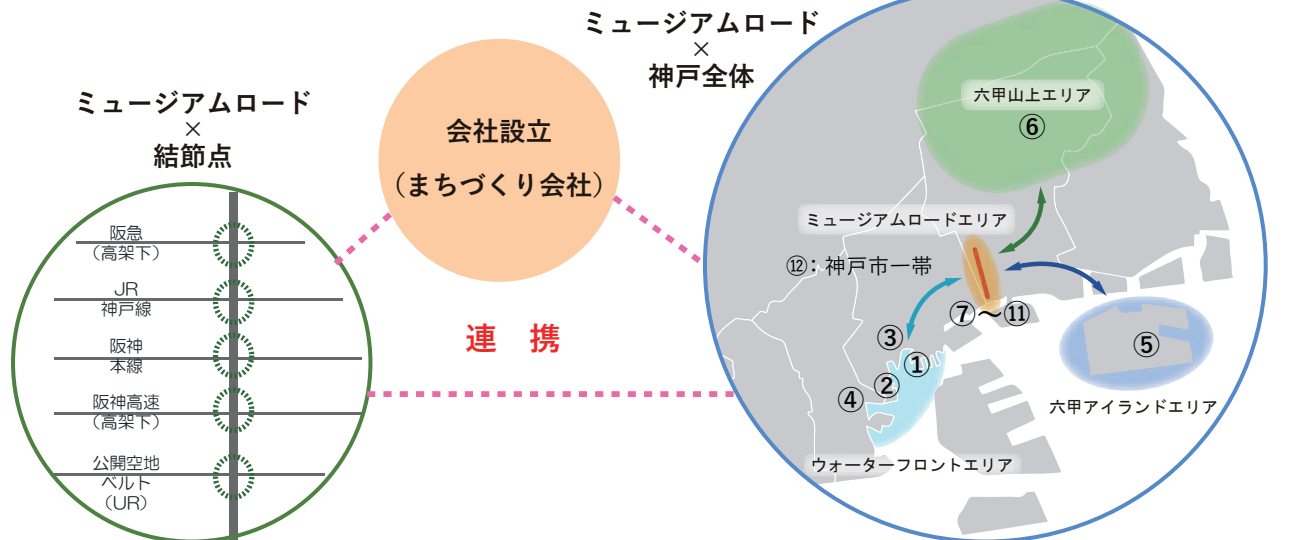


# 08 中長期スケジュール



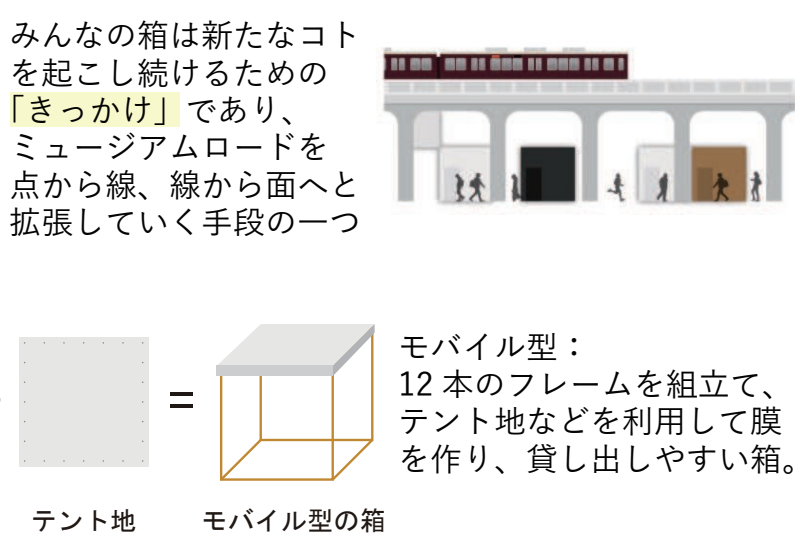
# 09 連携×組織 - ミュージアムロード結節点×イベント

組織づくりを進めていく中で、ミュージアムロード外で展開するアートイベントと連携し、相互に回遊や情報発信を行うことで、新たな文化プログラムの創出などを検討します。



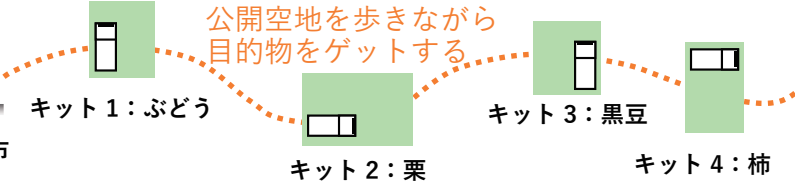
# 10 新たな拠点づくり・アクティビティ創出の手段

**■アイデア1：みんなの箱 × 人工軸 = 神戸のまちへ**  
簡易な立体「みんなの箱」を各所に配置し、小規模かつ実験的なイベントを実施することで、人の滞留や反応を検証し具現化していきます。



**可動式みんなの箱による街への展開**  
人・活動・イベントに応じて設置できる固定型・モバイル型のみんなの箱を導入します。高架下や駅前広場などの都市の余白に配置し、移動・撤去の容易さにより、誰もが手軽に文化活動を発信できる装置とします。複数のスケールを持つみんなの箱は、まちづくりの種となるツールとして機能します。

**■アイデア2：公開空地 × トラック市**  
公開空地などでモバイル型（トラック）を用いたイベントを実施します。マーケットや子どもものづくりイベントなど、参加しやすく実行可能性の高い取り組みとし、「アイデア1」の取り組みを発信します。この活動を通じて実績と資金の基盤を形成し、次段階へつなげます。



	イベント名	主催者
①	KOBE ART MRCHÉ	一般社団法人 神戸芸術振興協会
②	神戸ウォーターフロントアートプロジェクト	(株)神戸ウォーターフロント開発機構 神戸市
③	COMING KOBE(音楽フェス)	一般社団法人 COMING KOBE実行委員会
④	神戸新開地音楽祭	新開地ミュージックストリート実行委員会
⑤	六甲アイランド・アートフェア	六甲アイランド・アートフェア実行委員会
⑥	神戸六甲ミーツアート	六甲山観光株式会社 阪神電気鉄道株式会社
⑦	美かえるカラフルマルシェ	美かえるカラフルマルシェ実行委員会
⑧	神戸芸術工科大学 卒展	神戸芸術工科大学
⑨	灘高架下OPEN FES	神戸モダン建築祭における連携企画
⑩	1DAY JAZZ ROAD	1 DAY JAZZ ROAD実行委員会
⑪	HAT減災サマー・フェス	人と防災未来センター
⑫	KOBE国際音楽祭	神戸市 公益財団法人神戸市民文化振興財団